

令和4年度 校内研究全体計画

唐津市立鬼塚小学校

1 研究主題

自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成

～ 思いを伝え合い、自己を見つめる道徳科の授業づくりを通して ～

2 主題設定の理由

昨今、子ども達を取り巻く環境が複雑に変化する中、自制心や規範意識、自尊感情の希薄化、他者や地域社会、自然とのかかわりが減少していることが憂慮されている。また、いじめが原因と思われる子ども達の自殺や、情報通信技術の急速な発達に伴う人間関係構築のあり方が社会的な問題となっている。このような社会の中で、子ども達には、他者との相互理解を深め共によりよく生きようとする力や、様々な問題に対して自らの力で対応し解決していく力が求められている。そのために、自らが学ぶ意欲をもち、未来への夢や目標を抱き、自らを律しつつ、自己責任を果たすことができる次代を担う子どもの育成が必要である。このような点から、道徳教育の充実是不可欠なものである。

本校の児童の長所として、「明るく元気が良い、伸び伸びしている」点が挙げられるが、同時に「自分の思いをうまく表現できずコミュニケーションが苦手、自己肯定感が低い」点が課題として挙げられる。そこで、他者との関わりを通して他者を理解し、思いやりの心を育て、自分のよさに気づき自己肯定感を高くもつ児童を育てていきたい。

本校は平成30年度まで、児童が相互にコミュニケーションしながら、「できた」「わかった」「ありがとう」が響き合う授業、児童が主体的に学び合う授業を目指し、算数科において学び合う活動を取り入れた授業実践を重ねてきた。そして、主体的・対話的な深い学びを通して、児童の学習意欲や学力の向上が見られた。令和元年度からは、その成果を道徳科の授業づくりに生かし、思いを伝え合う活動を通して、自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成を目指し研究を行ってきた。三年間の研究で、児童の道徳科に対する意識が高まり、自分の思いをもち、その思いを積極的に伝え合おうとする児童が増えてきた。また、教材の内容を自分ごととして捉え、授業の振り返りで自己を見つめる児童も増えてきた。思いを伝え合う中で、友達の考えのよいところに気づき、物事を多面的・多角的に考えられる児童も見られるようになってきた。これまでの成果をもとに、今年度も引き続き研究を深めていきたい。

3 研究の目標

自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする児童を育てるために、「互いの意見を尊重し合いながら主体的に思いを伝え合い、物事を多面的・多角的に捉え、自己の考えを深めていく授業」「児童一人ひとりが自分ごととして問題を捉え、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める授業」の在り方を探る。

4 研究の内容と方法

(1) 道徳科の授業の充実

ア 年度当初の道徳科オリエンテーションの実施

イ 授業づくりの工夫（ねらいの明確化、教材研究、自分ごととして捉えさせるための発問、板書計画など）

ウ 自分の考えを明確化させるための工夫（ワークシート、役割演技、心のものさし、ハート

- グラフ、表情絵など)
- エ 交流のさせ方の工夫（交流の約束、交流形態、交流の観点、学年ごとの系統性など）
- オ 年間カリキュラムの見直し
- カ 教材・教具の保存と共有化
- キ 全学級での授業研究会の実施（全校授業研究会 3 回、グループ授業研究会 10 回）
- (2) 評価
 - ア 評価の視点の設定
 - イ 評価方法（授業記録シート、ワークシートの記述や振り返り、学期末の振り返りなど）
- (3) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実
 - ア 互いの意見を尊重し、互いを認め合えるような学級経営
 - イ 行事や総合的な学習の時間における「サッキーカード」の活用・「サッキーファイル（キャリアパスポート）」による積み重ねと振り返り
 - ウ 年 2 回の道徳アンケートの実施（集計、分析、改善策の検討）
- (4) 家庭・地域との連携
 - ア ふれあい道徳における道徳科の授業公開と保護者からの感想
 - イ 家族でタイム（道徳教材を家族と読んで、話し合う週末の宿題）
 - ウ 家庭からのコメント（「サッキーカード」「桜カード」「ハグハグ大作戦」など）
 - エ 地域との交流・体験活動（1 年生：れんげ畑遊び、3 年生：大谷川散策・なしておんつか、さくら学級：イチゴ摘み体験、5 年生：米作りなど）
 - オ 「道徳だより」の発行
- (5) 環境整備
 - ア 学級の道徳掲示板に、教材カードの掲示（道徳科の学習の振り返りに活用）
 - イ 全校道徳掲示板「こころコーナー」で、道徳科の教材内容の紹介
 - ウ 「サッキーの笑顔の木」に、桜カードの掲示（保護者・地域の方からの児童へのメッセージ、児童同士のメッセージ）

5 期待する研究の成果

教師一人ひとりが「思いを伝え合い、自己を見つめる道徳科の授業づくり」を工夫し、多面的・多角的な考えや価値観に触れさせる授業を行うことで、児童は自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする意識をもつことができるであろう。

6 研究組織

